

ある意味コストパフォーマンスは よくないけれど

北村敬良 — 高校教諭

『ブチ哲学』 佐藤雅彦



高校生は「どう思う？」という問いに弱い。小説や詩について授業をしていて、「どう思う？」と尋ねても、すぐに「分かりません」という答えが返ってくる。確かに、「どう思う？」なんていう発問の仕方がダメなのだとわれればそれまでなのだけれど、もう少し「あれこれ考え」てもらいたいと思う。仕方ないので「模範的な」考えを板書すると、それをノートに写して試験に備える。テストを返却しても、解説は聞いていない。正解だけを聞いて採点間違いが無いかだけを必死に点検するだけ。流行りの「アクティブラーニング」でそこを何とかしようとするのだけれど、思いどおりにはなかなか……。

『ブチ哲学』だから、早い話が「いろいろなことをちょっとだけ深く考えてみる」と言うこと。その内容は、百聞は一見にしかずで、以下のとおり。



筆者はこの漫画（絵も筆者の手で描かれている）の次のページでこう述べる。

「この2つの漫画に共通していることは、最終的な「結果」が目的ではなく、好きな人と一生過ごす過程や、念願のバナナをムシャムシャ思いつきり食べる、その経過が目的であったということです。一般的には、『結果』はとても大事です。（中略）しかし、それに反して、この漫画のように、結果だけでは意味をなさない事柄も、日常には少なくありません。」

まあこんな調子で、全31回「いろいろなこと」について、漫画と筆者の解説で「なるほどなあ」と考えさせられる1冊。最後まで読むのにそんなに時間はかからないので、ある意味コストパフォーマンスはよくないけれども、また、「哲学」なんて言葉がタイトルに付いていて敬遠されそうだけれども、中高生には楽しく読めるはず。

さて、私も高校生の愚痴ばかり言っていないで、授業の仕方についてあれこれ考えよう。👉